

第1回（6月30日）八尾翠翔高等学校学校運営協議会

【現在の学校の現状について】

- ・コロナやインフルエンザが落ち着いてきているが、この先の行事はまだ不安である。
- ・入試に関しては、3年連続定員割れ。（160名の生徒になれば、4クラスになってしまう）
- ・新カリキュラムの観点別評価で、生徒たちの評価が下がり、進路に影響が出るのではと不安がある。
- ・進学実績に関しては、19期生の成績が過去最高である。（英検準2級を50%以上の生徒が持っていた）
- ・スポーツ実績に関しては、陸上とトランポリンが全国レベル。
- ・生徒会では、携帯電話の使用を促進する活動を積極的に行っている。
- ・学校の設備が新しくなった。（全教室にエアコン、トイレがきれいに改装）
- ・学校の取り組みとして、コロナで中止になっていた語学留学を再開したい。
- ・校務運営は、令和4年度からすでに実施済み。（毎週月曜に一斉退庁日）

【質問】

- ・中学校では新カリキュラムの評価をどのように対応しているのか。
- 観点の評価の仕方をいかに細かくできるか。（より客観的に評価するため、資料を集める）
- ・観点別評価により、成績上位者が減り、指定校推薦などが難しくなるのではないかと不安。
大学側では、どのように考えているか。
- 大学では、クラブ活動の実績や出席日数を重視している。

【意見】

- ・定員割れをまずはどうにかしなければならない。
- ・翠翔高校に入れば、楽しいことはわかっている。課題としては、翠翔に入学したいと思う生徒を、どれだけ増やすことができるか。
- ・教職トライで小学校に行く際には、翠翔のジャージを着るなど、学校をアピールしてはどうか。
- ・町に翠翔のポスターを貼るなど、もっと宣伝する。
- ・「行ってみたいと思える学校」作りに焦点をあてる。